

会員の広場



甲府の旅 石橋湛山を訪ねて

深瀬 拓（東京）

月に一度開催している物申す会も50回を越え、そろそろ会員の声も同じ音色に聞こえて、マンネリをおそれていた小生ですが、そんなある日、その会で驚きの発言があった。「どこかへ泊まり込みで、徹夜で討論しませんか」という日会員の提案だ。しかし、司会者

の私を筆頭に高齢者が多いので「そんなことはムリ」だろうと思っていた。

その後数カ月がたつなか、何回となく同じ提案がなされた。そんな中で、かねて気にされていたのか、U会員がその声に応じるかのように「甲府は石橋湛山ゆかりの地、あそこで一泊はどうでしょう？」との声。「そんな近場で湛山研究か、それなら賛成!」。詳細は省くが、U世話人の至れり尽くせりの努力もあり、9月15日新宿発の高速バスに日帰り組を含めて、15名が乗り、一路甲府に向かった。あとで聞いた話だが、世話人は事前に奥さんと甲府まで下見に行っていたといったとのこと、まことに頭の下がる思いである。

さて一行はまず石橋湛山記念館を訪ねる。

湛山が東洋経済編集長時代に健筆をふるった頃の写真など印象深い展示物が目についた。

その後、シンポジウム「今、石橋湛山に何を学ぶか」に出席のため、隣の会場「びゅあ総合」に移動。湛山生誕130年を記念する会とあって、100名近い入場者が参集した。会は増田弘・東洋英和女子大教授、浅野純次経済倶楽部理事の講演と質疑応答。増田先生は「湛山の魅力とは？」のテーマで、豊富な識見から湛山の先見性、切迫する時局のなかでの粘り強い言論活動やぶれない精神力などについて話された。浅野理事からは「湛山と経済倶楽部」をテーマに、幅広い資料の中から、いかに湛山が経済倶楽部を大事にし、日本の啓蒙活動に力を注いだか、など話され

た。お二人の講演から小日本主義を標榜された湛山の世界に深く感動した。会場からの質問では、「現在の政界にはそんな人物はいるのか?」、「日中関係はどうなるのか?」など興味ある質問が次々に出された。

夕刻となり、わが物申す会メンバーも徹夜はムリとしても何か議論をしたいところ。折からホテルの食堂での夕食時間となり、そこに本日の講師のお二人が見え、急遽、湛山研究の「物申す会番外編」が始まった。石橋首相があのまま長期政権を維持していれば、歴史は大きく変わっていたのではないかなど、想いは果てしなく広がる。こうして、湛山に明け、湛山に暮れた実のある一日が終了した。翌朝、自転車であ府巡りをした元気者もいた。